



“よねやま”から広がる新しい世界 ⑨

# 日本とバングラデシュを芸術で結ぶ



東京リバーサイドR.C  
(第2580地区 東京都)

元クラブ米山記念奨学委員長  
**樋口 四郎 さん**

## 受賞をきっかけに深まった交流

クラブでは、イクバル氏を2年間お世話しましたが、私が彼と本格的に親しくなったのは、奨学期間後半の秋ごろでした。彼は非常に優秀で、卒業作品が（公財）野村財団の主催する新人美術家顕彰制度「野村美術賞」に選ばれたのです。これは、東京藝術大学大学院博士課程の中で特に優秀な学生に贈られる賞で、外国人留学生が受賞する例は希だと聞いています。実は、米山奨学生になる以前、彼は新人画家の登竜門として名高い「青木繁記念大賞公募展」の大賞を受賞していたのですが、そのことを一言も話さなかったのです。われわれも、彼のすごさを知らなかったのです。野村美術賞の受賞を機に彼の能力の高さや国費留学生として来日した経緯、生い立ちなどを知り、どんどん親しくなっていきました。

卒業から帰国までの数か月間、経済的なサポートが一切無くなってしまった彼を、当時の米山カウンセラーの呼びかけで、私を含むクラブの有志5人で支援しました。5人がそれぞれ、ポケットマネーで彼の絵を買ったのですが、彼の技量からすると、格安だったかもしれません。

そのほか、国内各地を旅行するなど、行動を共にするうちに、単なる米山奨学生と世話クラブの会員という関係を超え、親しい友人として付き合うようになりました。彼がダッカ大学美術学部<sup>1</sup>に准教授として迎えられと決まった時には「帰国したら、必ず来てほしい」と熱心に誘われました。社交辞令でなく本気で言ってくれているとわかり、彼の気持ちにに応えたいと、一緒に支援した榎本孝会員とダッカを訪れました。大学で彼が教壇に立ち、

バングラデシュの発展を支えていく学生を指導する姿に感動しました。教育に携わる人を支援すれば、その効果は桁違いに大きいと実感した旅でした。

## クラブ全体で情報共有して応援

イクバル氏と知り合わなければ、われわれがダッカに行くことはなかったでしょう。帰国してからも、「バングラデシュ」「ダッカ」という文字を目にすれば、自然と関心を持たざるを得なくなり、そのため、近年、両国の交流が大きく進展していることも知りました。そのかげに、彼の活躍があることを、とてもうれしく思います。

彼は、日本の大学との学術交流に尽力するとともに、ダッカの日本大使館と協力し、両国の文化交流にも貢献しています。日本の安倍晋三首相夫妻がダッカ大学を訪問された際には、彼のアイデアで、日本に国費留学した画家の作品を集めて展示し、案内役を務めるなど、日本との懸け橋となる役割を立派に果たしたそうです。

彼の活躍は今も随時、例会で“イクバル情報”として会員全員に伝えていきます。「また言っている」と、会員はあきれているかもしれませんが、彼の活躍を通じて米山記念奨学事業の意義は理解されていると思います。

イクバル氏は、アーティストとしても、教育者としても、まだまだ高みを目指すことのできる人材です。世話クラブとして、また友人として、われわれはこれからも彼を応援し、さらなる活躍を期待したいと思います。



安倍首相に自身の作品を贈るイクバル氏

今年度の「よねやまだより」は、前年度に続いて「よねやま」から広がる新しい世界」シリーズをお届けします。米山奨学生との出会いが異文化への理解や国際交流につながったといった体験談を、ロータリアンと奨学生双方の視点から語っていただきます。今月は、バングラデシュのダッカ大学美術学部で准教授として教壇に立つ傍ら、画家としても活躍中の米山学友、モハメド・イクバルさんと世話クラブの樋口四郎さんにお話を伺いました。



米山学友  
モハメド・イクバルさん

出身：バングラデシュ  
奨学期間：2008 - 10  
学校名：東京藝術大学大学院

### 米山記念奨学金のサポートを得て

私が米山奨学生になったのは、博士課程2年の時です。芸術専攻の学生は、創作活動にすべての時間をかけなければならず、2年間の奨学金のおかげで、創作や論文執筆に専念することができました。目標の博士号を3年で取得できた上、野村美術賞も受賞できました。経済的に助けられただけでなく、毎月参加する世話クラブの例会で皆さんと仲良くなり、私をとてても大事にしてくれるのを感じて励まされました。

私は国費留学生として来日し、最初に地方の大学で学んでいましたので、博士課程で東京に進学してからは「田舎の人に比べて東京の人は冷たい」という印象を持っていましたが、東京リバーサイドロータリークラブの皆さんとの交流を通じて、その温かさに感動しました。今も、仕事で日本に行く時には必ず皆さんに連絡して、会うようにしています。ロータリークラブ

では、みんなが集まり、仲良くなって、良いことを考えます。そのことにも大きな影響を受けました。

### 日本との交流を深める役割を担う

現在、私が最も力を入れているのが、芸術分野で日本との交流を活発にすることです。昨年、東京藝術大学の学部長との会議では、同大学とダッカ大学美術学部の間で、教員や学生の交換プログラムを提案し、合意を得ました。まずは油絵専攻で始め、軌道に乗ったら、徐々にほかの学科にも広げていきたいと思っています。

また、大学に日本の環境美化活動を導入し、年に1～2度、学生と教職員と一緒にキャンパス内を大掃除しています。これまで母国の大学ではこうした取り組みはなく、学生たちも「学びの場がきれいになった」と喜んでいました。

今後も日本との交流を深め、学生たちが世界に目を向け、その可能性を伸ばせるようサポートするのが私の役目と信じて、力を尽くしたいと思います。

#### ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または「よねやまだより」についてのご意見を、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。

Tel. 03-3434-8681 Fax. 03-3578-8281

Eメール：mail@rotary-yoneyama.or.jp



### ソウル国際大会で米山の分科会を開催します！

2016年5月28日～6月1日に開催されるソウル国際大会では、米山史上初となる分科会を開催し、世界のロータリアンに日本の米山記念奨学事業をPRします。ロータリアンの皆さん、ぜひ分科会に参加し、この歴史的瞬間を見届けてください。また、会期中は「友愛の家」にブースを出展します。ソウル国際大会は、東アジアで開催されるまたとない機会であり、米山奨学生・学友の参加を呼び掛けています。お知り合いの奨学生・学友をお誘い合わせのうえ、一緒にご参加ください。なお、奨学生・学友のご登録の際は、当奨学会事務局へご連絡ください。

★分科会 日時：2016年5月30日(月) 14:00～/会場：KINTEX内/タイトル：米山記念奨学会の成果—世界に平和の種をまく日本全地区合同プロジェクト—

※ 日時は変更する場合がございます。詳細は当奨学会ホームページ (<http://www.rotary-yoneyama.or.jp>) をご覧ください。